

第2回有識者懇談会での主な意見と対応

| 項目等 | 指摘事項  | 対応の方向・修正(案)   |
|-----|---|---|
| 現状  | <ul style="list-style-type: none"> <li>資料3に「地域コミュニティの高さ」とあるが、地域コミュニティに高い低いはない。妥当な言葉を選ぶべき。</li> </ul>  | <p>「地域コミュニティの強さ」に修正する。</p>  |
|     | <ul style="list-style-type: none"> <li>文化的な豊かさについて、記載が不足している。</li> </ul>  | <p>【中間整理 P7】<br/>第1章1(自然、歴史、農林水産業、食文化、ものづくり等豊富な資源を活かした雪国ならではの生活の知恵が複合した独自で多様性のある文化) に、以下の文章を記載。</p>   |
|     | <ul style="list-style-type: none"> <li>さまざまな産業があり、農村があったり、職人が手仕事をやっている工場もあったりすることは、子どもたちに多様な生き方に触れさせることができるということでもある。その点も強調されるとよいのではないか。</li> </ul>   | <p>「食文化を支える伝統工芸に加え、加賀友禅や越前和紙、若狭めう細工、越前打刃物、井波彫刻、高岡銅器等、多くの伝統工芸が引き継がれており、これらを背景として、東京や京都に次いで、人口に比して多くの美術家を輩出している。これらの伝統工芸は、子どもたちに多様な生き方に触れさせる機会を与えている。」</p>  |
|     | <ul style="list-style-type: none"> <li>方向性が見えてきた印象がある。全国レベルの水準の居住環境(教育・生活)があることをもっと強調してもよいのではないか。</li> <li>北陸圏の経済力と暮らしの場としての価値は、日本で突出している。両方をあわせ持っているという特長は、もっと強調して表現してもよいのではないか。</li> </ul>                | <p>【中間整理 P3、P4】<br/>第1章1(地域コミュニティの強さや経済的ゆとりで子育てしやすく女性の社会参加がしやすい優れた生活環境) に、以下の文章を記載。</p> <p>「北陸圏は、三世帯同居率が全国平均よりも高く、安心して子育てを委ねられる父母が同居・近居する傾向が高い。また、町内会・自治会が所在している市町村の割合が高く、地域コミュニティへの参加意欲、地域全体で社会や家庭を支える意識が高い地域である。</p> <p>また、有効求人倍率が全国で最も高いこと、全国平均に比べて通勤時間が短いこと、保育施設が充実していること等を背景に、仕事と子育てを両立し、女性が社会参加し易い環境にあり、女性の就業率が高くなっている。そのため、児童のいる世帯における共働き世帯の割合が全国で最も高くなっており、1世帯あたりの世帯収入も高い水準にある。さらに、高い世帯収入を背景に持ち家比率も全国で最も高い。</p> <p>加えて、北陸圏は全国体力・運動能力、運動習慣等調査や全国学力・学習状況調査において小学校、中学校の児童は上位の成績を上げており、初等・中等教育にも優れた地域である。</p> <p>さらに、北陸圏は、人口1人あたりの社会教育費、文教施設投資額が高い水準にあり、また、人口1人あたりの都市公園面積、下水道普及率、人口10万人あたりの医師数が全国平均より高いなど、企業を巻き込んだ子育て支援施策が実施され、日常生活を送る上で優れた生活環境を有している。」</p> |
| 課題  | <ul style="list-style-type: none"> <li>北陸圏の弱みについて、本文の文章の中でもう少し触れたほうがよいのではないか。課題と問題は、異なる。たとえば、北陸は幸福度が1番だと言っているが、住みたいまち1番にはなっていない。選択肢が少ないという指摘もあったが、多様性が少ない、閉鎖的ということもあるのではないかと。そうした問題を整理しておくことが必要。</li> </ul> | <p>【中間整理 P17】<br/>第1章2(4) 接続する都市群と半島や中山間地の共生 (都市の接続や地域コミュニティがもたらす魅力ある暮らしの充実) に、以下の文章を記載。</p> <p>「さらには、歴史・文化面や産業面、学術面等でそれぞれの特徴を持つ都市が接続する北陸圏ならではの特徴を活かした都市間の連携により、多様な高次の都市サービスを提供していくため、「連携中枢都市圏」や「定住自立圏」の形成を促進する必要がある。</p> <p>また、都市間交通ネットワークを今後より一層強化していくことも急務の課題であり、北陸新幹線等を活用し、大都市や他の都市圏との連携を図り、地域の魅力のある「しごと」を創出し、地域の活力の向上に向けた取組や、二地域居住や定住希望者等の多様なニーズへの対応等、地域人口の増大に向けた方策も検討していくことが望まれる。」</p>  |
|     | <ul style="list-style-type: none"> <li>エネルギー効率もそれほど高くはない。改善が必要。</li> </ul>  | <p>【中間整理 P15】<br/>第1章2(3) 厳しい自然環境の中でも安全・安心で快適な生活レベルの維持・向上 (エネルギー開発等の更なる推進) に、以下の文章を記載。</p> <p>「そのような状況の中、地球環境負荷軽減に向け、地域住民を巻き込んだ新たな取組や小水力、太陽光、地熱、風力、木質バイオマス等の北陸圏に存在する豊かな自然再生エネルギーを最大限活用した発電技術や新たなエネルギー開発に取り組む必要がある。」</p>   |
|     | <ul style="list-style-type: none"> <li>農家が自分の小さな畑で野菜を作りながら年をとっていくのは、幸せなことである。北陸では、高齢者の息子・娘が1時間圏内に住んでいるケースが多く、先ほど指摘された高齢者の散居への懸念は、あまり心配する必要がないと思われる。</li> </ul>  | <p>【中間整理 P18】<br/>第1章2(4) 接続する都市群と半島や中山間地の共生 (半島や中山間地等での過疎化の進行への対応) に、以下の文章を記載。</p> <p>「日本人にとって豊かで多様性を支えるふるさとを守り、都市とともに農山漁村の暮らしを圏域一体で維持し支えていくため、小学校区等複数の集落が散在する地域において、商店、診療所等の日常生活に不可欠な施設・機能や地域活動を行う場所を歩いて動ける範囲に集め、周辺集落とコミュニティバス等の交通ネットワークで結ぶことで人々が集い交流する機会が広がり、愛着ある地域に住み続けられることを目指す取組である「小さな拠点」づくりや、相互扶助等の農山漁村の協働力の優れた面も活用した地域コミュニティの維持・強化や多様な主体の参加による新たな地域協働の形成が必要である。」</p>   |
| 将来像 | <ul style="list-style-type: none"> <li>世界の中での北陸の役割を示す計画としてもよいのではないか。富山市では、コンパクトシティの取組がOECD報告書に掲載されたことで、各所から声がかかるようになった。最初は力不足でも、背伸びをすると視野は広がるものだ。</li> </ul>  | <p>【中間整理 P29】<br/>第2章1 位置付け に、以下の文章を記載。</p> <p>「北陸圏の優れた地域資源を圏域内の連携により磨き上げることで自立的な発展を図るだけでなく、立地特性を活かして、人口規模や面積等は小さいながらも、環日本海諸国を始めとする東アジアや、国内外との対流・交流・連携を進めることにより、我が国の持続的な発展を先導する、日本海側における対流・交流の中枢圏域としての役割を果たしていく。」</p>   |
|     | <ul style="list-style-type: none"> <li>将来像について、「どこよりも」という表現がされているが、何かと比較するのではなく、北陸の住民が自信とプライドを持って輝くということを示す表現がよいのではないか。</li> </ul>  | <p>将来像の(1)を<br/>「暮らしやすさに磨きをかけ更に輝く 新・北陸」に修正する。</p>   |

|  |  |   |
|--|--|---|
| 暮らし  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・3世代同居率や共働き率の高さが記載されているが、世帯に子どもが複数いる三世帯同居が北陸では理想的だろう。世帯あたりの子どもの人数が一人の世帯と複数の世帯はどちらが多いのか、またそれらの世帯収入には差があるのか等、データを用いて、やはり北陸は子育てしやすい、住みやすいという裏付けができればよいのではないか。</li> </ul>               | <p>国民生活基礎調査に基づき、「児童のいる世帯の平均児童数」「2人以上児童のいる世帯の割合」を整理(別添資料)。</p>   |
|  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・子育て支援については、もっと踏み込んでほしい。三世帯同居は働きやすさだけでなく、孫育ての観点からも重要であり、どのように最期を看取るかということも関わる。</li> </ul>   | <p>【中間整理 P34】<br/>第3章1(1)親との近居や地域コミュニティを維持するとともに、子育て支援や女性就業、生活サービス支援等だれもが暮らしやすい生活環境の充実(若者から高齢者みんなが住みやすく、2代、3代と安心して住み続けられる、地域コミュニティの維持・充実、定住化環境整備)に、以下の文章を記載。</p> <p>「特に北陸圏では、祖父母が孫の面倒をみる機会が多いなど世代間交流が多いことから、多世代の誰もが安全・安心で快適に暮らすことのできる環境づくりのため、住宅・建築物の耐震診断・耐震改修の促進を図るとともに、省エネ・バリアフリーを取り入れるなど環境に優しく生活拠点集約等の機能も持つ多世代循環型地域構築を目指す。」</p>  |
|  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・たとえば砺波の散居村は全くコンパクトではないが、集住は地元の反発が強い。県民性や地域性を考えたまちづくりが必要だ。こうした地域の高齢化を支えるには公共交通が重要だが、富山市以外は決定的にインフラが弱い。老後が明るく見えないところでは、長く住もうとは思われない。</li> </ul>                                      | <p>【中間整理 P42】<br/>第3章1(3)多様性と集約性のある都市サービス拠点のコンパクト化と交通ネットワーク充実による持続可能で多様な居住選択機会の提供及び人口誘致(中山間地等における生活サービス機能の集約化と利便性の高いネットワークの形成)に、以下の文章を記載。</p> <p>「少子高齢化・過疎化が顕著である中山間地や農山漁村では、地域の活力や地域コミュニティの維持に向け、小学校区等複数の集落が散在する地域において、商店、診療所等の日常生活に不可欠な施設・機能や地域活動を行う場所を歩いて動ける範囲に集め、周辺集落と交通ネットワークで結ぶことで人々が集い交流する機会が広がり、愛着ある地域に住み続けられることを目指す取組である「小さな拠点」づくりを推進する。」</p>  |
|  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・「コンパクト+ネットワーク」を取り上げているが、全国計画に比べ具体性に欠ける。圏域の中でのモデルを示すなど具体化を。</li> </ul>  | <p>【中間整理 P38、P39】<br/>第3章1(3)多様性と集約性のある都市サービス拠点のコンパクト化と交通ネットワーク充実による持続可能で多様な居住選択機会の提供及び人口誘致(都市拠点機能の集約等コンパクト化と交通ネットワークを活用した職住近接等暮らしやすさの充実)に、以下の文章を記載。</p> <p>「また、周辺の複数の中小都市に対して日常生活上の利便性を高める高次の都市拠点サービスを提供する拠点都市地域の整備を推進するとともに、小学校区単位で地域住民の総意で策定した計画に基づいて自ら進める身近な地域単位の地域づくりや地域の創意工夫を活かしたまちづくり等、都市地域の充実・強化を推進する。<br/>あわせて、富山市が取り組んでいるようなLRT(次世代型路面電車システム)を始めとする鉄軌道やバス等を組み合わせる公共交通の充実を図る地域公共交通網形成計画の策定等により、戦略的な公共交通ネットワークの再構築を推進する。さらには、市街地の分断解消のための連続立体交差事業等を推進する。」</p>   |
| 人口誘致、コンパクト+ネットワーク  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・国土形成計画の全体を網羅しているように見えるが、インパクトが弱くなっている項目がある。環境、インフラ基盤のメンテナンス、ICT技術の活用が弱いのでは。</li> </ul>   | <p>【中間整理 P43】<br/>第3章1(3)多様性と集約性のある都市サービス拠点のコンパクト化と交通ネットワーク充実による持続可能で多様な居住選択機会の提供及び人口誘致(的確な優先順位等によるインフラの長寿命化等対策等インフラマネジメントの構築)に、以下の文章を記載。</p> <p>「なお、老朽化する道路施設等について、安全性の徹底調査・点検、老朽化対策を重点的に実施するとともに、予防保全を基軸とするメンテナンスサイクルを構築・実行し、中長期的なトータルコストの縮減や予算の平準化を図る。」</p> <p>【中間整理 P41】<br/>第3章1(3)多様性と集約性のある都市サービス拠点のコンパクト化と交通ネットワーク充実による持続可能で多様な居住選択機会の提供及び人口誘致(セーフティネットのある安心とゆとり、高度情報通信環境の充実等による利便性や高等教育機会に恵まれた魅力のある暮らしやすい農山漁村の形成)に、以下の文章を記載。</p> <p>「ブロードバンド環境の整備、テレワークやクラウドソーシング等、ICTの普及・高度情報通信基盤の整備・活用に合わせて、サイバー空間の安全を確保するための対策を強化することにより、農山漁村の魅力ある暮らしを積極的に情報発信する仕組みづくりを図るとともに、「道の駅」の整備・活用による特産物販売や地域情報の発信に取り組むことで、環境保全や食へのこだわり、健康志向、知的欲求の高まり等、都市住民の多様なニーズに対応できる満足度の高いサービスを提供し、都市住民等との交流により、農山漁村の活性化を図る。農山漁村における水と緑豊かな自然環境の保全や地域環境の形成、地域資源を活かした美しく個性あるまちづくり・地域おこし、伝統文化の伝承等に取り組むなど農山漁村と都市との交流や新たな地域協働の形成、人材育成の仕組みづくりを推進する。」</p> |
|  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ものづくりの都市として困っているのは、働く人材がいないということである。富山では業業が盛んだが、全くの素人が製薬工場のラインに立つことは困難である。こうした労働者をどう育てるか。専門学校必要性を、業界の方からも訴えられている。製造業を支えながら、都市と一緒に成長していくという視点が盛り込まれると、他の市町村の参考になるのではないか。</li> </ul> | <p>【中間整理 P55、P56】<br/>第3章2(1)集積する同業種・異業種や高等教育機関の連携都市間での対流と交通・ICTネットワーク環境の充実(起業意欲にあふれる人材の育成・定着と誘致、ものづくりを継承する年齢・性別を問わない将来を視野に入れた様々な人材育成の確保)に、以下の文章を記載。</p> <p>「地域固有の進取の気性を継承する起業家精神にあふれる人材を育成していくため、質の高い教育サービスの提供等、人材育成機能の強化に向けて地元大学を始め産学官金が連携して取り組むとともに、起業活動支援の仕組みづくりや企業誘致による雇用機会の創出等、人材の定着する環境づくりを推進する。さらに、優れた人材を誘致していくため、良好な住環境や既存企業のポテンシャルを積極的に発信していく。<br/>このためには、地域の知の拠点である大学・高等専門学校等の高等教育機関において、安定的な財政基盤を確保しつつ、環境や少子化等の時代や社会のニーズに対応した学部・学科の新設・見直し等、教育研究体制を充実させるとともに、教員・職員の研修や学生のキャリアサポート等に相互に連携して取り組むこと等により、質の高い教育サービスを提供し、圏内の高等教育機関のさらなる魅力向上を図る。<br/>また、域内の各高等教育機関については地方公共団体との連携を強化するとともに、産業界とも連携した様々な世代を対象とした人材育成カリキュラムの開発や技術・人材の斡旋・交流、人材育成強化拠点・起業支援拠点の整備を推進する。」</p>   |
|  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・人材育成は非常に重要である。高等教育機関への要望も、ぜひ計画に書き込んでいただきたい。</li> </ul>   | <p>—</p>  |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・富山市の取組自体は、各自治体の目標になる良い事例だと思う。</li> </ul> | <p>—</p>   |   |

目標①個性ある北陸圏の創生

|      |   |   |
|------|---|---|
| 防災   | <p>・ 前回地方計画では大雪が大きなテーマだったが、今回はあまり触れられていない。きちんと入れてほしい。北陸新幹線開業後、まだ雪の季節を迎えていない。北陸で冬に観光客が減るのは、車の運転に抵抗がある人が多いからではないかと思うが、この観光客減を克服することは重要な課題である。</p>   | <p>【中間整理 P44、P45】<br/>第3章1(4)風水害や土砂災害等のほか、地震・津波も含めた更なる災害リスク低減に向けたソフト・ハード一体の防災・減災対策の強化や居住環境の充実（災害に強い国土形成）- 大雪対策 に、以下の文章を記載。</p> <p>「このため、冬季における生活や観光、産業活動を支える道路交通の信頼性の確保に向けて、重点的に除雪を実施する路線や大雪時にも優先的に交通機能の確保を目指す路線として「雪みちネットワーク」を設定するとともに、関係機関が連携する情報連絡本部を開設し、事故、渋滞状況、迂回路等の道路交通情報を地域住民や道路利用者への提供を行う。さらに、過去の大雪時の混乱を教訓に、除雪優先区間の設定や早めの通行止めによる迅速な除雪作業の実施、高速道路及び関係機関との連携等を推進し、幹線道路の除雪体制の強化を進める。あわせて、下水処理水や農業用水の融雪利用も推進する。」</p>   |
|      | <p>・ 復興計画の合わせ技を盛り込んでおくべきではないか。たとえば、普段はキャンプ場だが、発災時には災害復旧拠点になる等。今回の計画では、他地域の災害時の応援に行くことは記載されているが、北陸圏の被災時にどのような支援を求めたいのかが考えられていない。</p>   | <p>【中間整理 P44】<br/>第3章1(4)風水害や土砂災害等のほか、地震・津波も含めた更なる災害リスク低減に向けたソフト・ハード一体の防災・減災対策の強化や居住環境の充実（災害に強い国土形成）- 地震・津波対策 に、以下の文章を記載。</p> <p>「また、地震発生による建物倒壊や火災等による人命や資産への被害の防除に向けた住宅・建築物の耐震診断・耐震改修の促進や、宅地の耐震化・液状化防止、延焼危険性のある密集市街地の解消等による市街地の再生・再構築、被災時の衛生確保のための下水道施設の耐震化に取り組むとともに、災害対策活動の拠点施設や避難所等の防災拠点施設の耐震化に加え、物資の備蓄、非常電源の確保、代替機能の確保等のバックアップ機能強化や津波避難施設の確保・整備を推進する。」</p>   |
| 自然環境 | <p>・ 国土形成計画の全体を網羅しているように見えるが、インパクトが弱くなっている項目がある。環境、インフラ基盤のメンテナンス、ICT技術の活用が弱いのでは。</p>  | <p>【中間整理 P50】<br/>第3章1(5)豊かな自然環境の保全と地球環境問題への対応（自然環境・水循環の維持又は回復）に、以下の文章を記載。</p> <p>「また、生物多様性の重要性を多くの人々の共通認識とし、行動へと結びつけていくことが必要であり、そのためには教育及び学習を通じて、生物多様性に関する理解や知識を深め、それを行動へと結びつけていく能力を養う。このため、国立公園などの自然公園において、自然観察会の実施、ビジターセンターにおける普及啓発活動等を通じて、多くの人が自然とふれあい、我が国の自然の豊かさを実感できる機会を提供する。」</p> <p>【中間整理 P52、P53】<br/>第3章1(5)豊かな自然環境の保全と地球環境問題への対応（資源循環と不法投棄対策）に、以下の文章を記載。</p> <p>「地域社会や企業等におけるこれまでの地道な取組により様々な資源のリサイクルは堅調な伸びを示しているが、更なる循環型社会構築に向けて、廃棄物の発生抑制や循環資源の再利用・再生利用等の3R施策等を推進するとともに、都市と農山漁村が、相互補完によって相乗効果を生み出しながら、それぞれの経済社会活動を行う「地域循環共生圏」の構築を図る。」</p>   |
| 産業集積 | <p>・ ものづくり産業の人材育成を考えたとき、最先端技術の教育・研究も必要だと思うが、いまある技術を継承し、伸ばしていくことも重要であり、そういう人材育成も考えてほしい。</p>  | <p>【中間整理 P56】<br/>第3章2(1)集積する同業種・異業種や高等教育機関の連携都市間での対流と交通・ICTネットワーク環境の充実（起業意欲にあふれる人材の育成・定着と誘致、ものづくりを継承する年齢・性別を問わない将来を視野に入れた様々な人材育成の確保）に、以下の文章を記載。</p> <p>「また、少子・高齢化により生産年齢人口が減少している中で、北陸のものづくり産業を継承する担い手を確保するため、若者、女性、高齢者や障害者等が意欲と能力に応じて働くことができるよう、職業意識の形成や就業支援を推進する。」</p>   |
|      | <p>・ 工業統計をみると、従業員一人当たり付加価値額は、それほど高くない。高付加価値化を目指す上で、現実を押さえて世界のニッチトップ企業を抱える北陸の強みを伸ばし、付加価値力を高めることが重要である。そのためには、中小企業のネットワーク化に触れてもよいのではないかと。中小企業単独でさまざまなソリューションを検討するのは難しい。複数企業が連携した動きは活発化しているが、それをさらに促進することが重要。</p>  | <p>【中間整理 P55】<br/>第3章2(1)集積する同業種・異業種や高等教育機関の連携都市間での対流と交通・ICTネットワーク環境の充実（イノベーションの促進による活発な新産業の創出、産・学・研による加工製造の新技术の開発による高付加価値化）に、以下の文章を記載。</p> <p>「北陸圏は、炭素繊維複合材の中間材の生産拠点が存在しているほか、約4割の出荷額を誇るアルミサッシ等、素材生産や加工技術等の集積があることから、「高機能新素材生産」を高度化し、用途開拓することにより、更なる高機能新素材産業の振興を図る。また、中小企業地域資源活用プログラム等を活用し、中小企業のネットワーク化を進めていく。」</p>  |
|      | <p>・ 本社機能を東京から小松に移転したが、現実には単身赴任が多い。一般的に北陸は住みやすい地域であり、実際住んでみるとそのとおりだが、周りの人間はそうは思っていないのかもしれない。選択肢の少なさが一つの阻害要因ではないか。たとえば、大学が東京に比べれば少ない。北陸三県の中で、個性のある選択肢づくりをしてほしい。</p> <p>・ 福井県でも、行政がさまざまな取組をしており、子育てと女性活用についてはいっばん進んでいる。しかし、若い人が流出してしまうのは、大学の選択肢が少ないことと、身近な賃金格差が原因だろう。</p> <p>・ 高等教育機関への期待も、もっと書いてよい。大学卒業後に留まらせるために大学側がもっと努力せよということでもよい。金沢の魅力を感じて、県外から金沢に進学した若者が残るケースも多い。こうしたこともうまく書き込めるとよい。</p> <p>・ 富山県内の大学で勉強した若者が、県外に就職してしまう。せっかく教えても、富山県内で生かしてもらえていない。就職支援に問題がある部分もあるが、生涯賃金が大きく違うなど、北陸の中での自分の未来を明るくイメージできないのではないかと。能力のある若者にとっての魅力は、働きがいもあるが、やはり賃金、安定収入の保障である。</p> | <p>【中間整理 P55、P56】<br/>第3章2(1)集積する同業種・異業種や高等教育機関の連携都市間での対流と交通・ICTネットワーク環境の充実（起業意欲にあふれる人材の育成・定着と誘致、ものづくりを継承する年齢・性別を問わない将来を視野に入れた様々な人材育成の確保）に、以下の文章を記載。</p> <p>「地域固有の進取の気性を継承する起業家精神にあふれる人材を育成していくため、質の高い教育サービスの提供等、人材育成機能の強化に向けて地元大学を始め産学官金が連携して取り組むとともに、起業活動支援の仕組みづくりや企業誘致による雇用機会の創出等、人材の定着する環境づくりを推進する。さらに、優れた人材を誘致していくため、良好な住環境や既存企業のポテンシャルを積極的に発信していく。このためには、地域の知の拠点である大学・高等専門学校等の高等教育機関において、安定的な財政基盤を確保しつつ、環境や少子化等の時代や社会のニーズに対応した学部・学科の新設・見直し等、教育研究体制を充実させるとともに、教員・職員の研修や学生のキャリアサポート等に相互に連携して取り組むこと等により、質の高い教育サービスを提供し、圏内の高等教育機関のさらなる魅力向上を図る。また、域内の各高等教育機関については地方公共団体との連携を強化するとともに、産業界とも連携した様々な世代を対象とした人材育成カリキュラムの開発や技術・人材の斡旋・交流、人材育成強化拠点・起業支援拠点の整備を推進する。」</p> |

目標②  
競争力ある産業の育成

|                             |  |  |   |
|-----------------------------|--|--|---|
| 産業誘致                        | <ul style="list-style-type: none"> <li>産業誘致については、研究所の誘致がよく言われるが、研修施設の誘致も重要。交流人口が増える。コマツやYKK等の事例もあるので、もう少し深掘りしてもよいのではないか。</li> </ul>        | <p>【中間整理 P57】<br/>第3章2(2)太平洋側及び海外企業等の製造拠点・本社・研究開発・研修機能の誘致推進に向けた支援施策や環日本海諸国等海外や国内他地域との経済連携・立地ニーズにこたえるPR強化（環日本海諸国等海外や国内他地域からの企業の製造拠点・本社・研究開発・研修機能等の誘致や人材育成、誘致による地域産業の活性化）に、以下の文章を記載。</p>   |   |
|                             | <ul style="list-style-type: none"> <li>小松に研修施設を持っている。たまたま土地があつて小松空港が近かったというのが立地の理由。年間三万人程度来ているが、それだけの人数を集めるためには、充実した二次交通が必要である。</li> </ul> | <p>「高規格幹線道路・地域高規格道路等の幹線道路網の整備、国際物流の拠点となる港湾・空港の整備等を踏まえ北陸圏の物流や二次交通を含めた人流環境の向上に向けた取組を推進するとともに、北陸新幹線開業による三大都市圏との近接性を活かすことで、三大都市圏や海外からの企業の製造拠点・本社・研究開発機能や研修機能等の誘致を進め安定した魅力ある雇用環境を創出するとともに、産学官が連携し人材育成機能強化を推進する。」</p>  |   |
| 地域ブランド                      | <ul style="list-style-type: none"> <li>農林業のリソースはあるので、いかに生産性を上げるかが重要。もう少し先を見越した目標を記載したり、将来性のある農業支援が必要ではないか。</li> </ul>                      | <p>【中間整理 P59】<br/>第3章2(3)圏域の食料供給力と地域ブランド力の更なる強化（食料の安定供給と農山漁村の活性化）に、以下の文章を記載。</p> <p>「農業が持続的に発展し、食料の安定供給の確保のみならず多面的機能の発揮という役割を発揮していくために、経営感覚を持ち自らの判断でチャレンジしていく農業経営者が活躍できる環境の整備と国産農産物の競争力の強化に向けて、担い手（効率的かつ安定的な農業経営及びこれを目指して経営改善に取り組む農業経営）の育成・確保、農地中間管理機構を活用した担い手への農地集積・集約化、農業生産基盤の整備、需要に応じた生産・供給体制の改革、農業の生産・流通現場の技術革新の実現等を推進する。」</p> |   |
|                             | <ul style="list-style-type: none"> <li>新しい将来像に向けた戦略について、グローバル化への対応として、ものづくり、観光、販路の拡大は重要である。既存の項目で触れるか、新たに項目を立てるかすべきではないか。</li> </ul>       | <p>第3章2(3)圏域の食料供給力と地域ブランド力の更なる強化 に、<br/>(食のブランド化と海外展開の推進)や(食をテーマとした交流・観光の強化)を項目立てて記載。</p>  |   |
| 目標③<br>日本海側の<br>中枢拠点の<br>形成 | 物流・旅客  | <ul style="list-style-type: none"> <li>本社機能の移転の促進や太平洋側との連携強化を掲げているが、販路の問題がある。名古屋・大阪と結ぶインフラの整備推進や環日本海諸国とのアクセス・連携もあわせて記載するべきではないか。</li> </ul>  | <p>【中間整理 P62】<br/>第3章3 日本海側の中枢圏域の形成 ～日本海沿岸地域の連携強化と太平洋側との連携強化～ に、以下の文章を記載。</p> <p>「第1に、市場となる大都市圏との取引や物流等を支える、更なる時間距離の短縮や生産拠点等誘致に向けた信頼性の高い国際物流・旅客機能の強化、第2に太平洋側の防災面に加え産業等機能においても代替性を発揮する防災・産業拠点及びネットワークの強化である。」</p>  |
|                             |  | <ul style="list-style-type: none"> <li>福井県は交通と物流が遅れている。福井側からの情報発信不足もある。</li> </ul>   | <p>【中間整理 P63】<br/>第3章3(1)市場となる大都市圏との取引や物流等を支える、更なる時間距離の短縮や生産拠点等誘致に向けた信頼性の高い国際物流・旅客機能の強化（道路・鉄道・港湾・空港と産業活動が連携した物流機能の強化）に、以下の文章を記載。</p> <p>「このため、大幅に増加する物流貨物の受け皿を確保するのみならず、経済・産業面での相互発展を支援し、港湾利用と連動した企業立地の促進等、産業分野と連携した物流機能の強化のため、港湾の国際海上コンテナターミナル、国際物流ターミナルや国内物流ターミナルの整備、空港の国内外の物流機能の強化を推進する。さらに、貨物利用の目的に応じた輸送経路の選択可能性の向上や災害時にリダンダンシーを発揮する相互補完機能を強化するため、高規格幹線道路や地域高規格道路等の幹線道路網の整備により、広域交通ネットワークの構築を推進する。」</p>   |
| 防災                          |  | <ul style="list-style-type: none"> <li>産業の強靱化に向けて、エネルギーの供給網、資源・リサイクルのロジスティックスを考えるべきだ。</li> </ul>   | <p>【中間整理 P67】<br/>第3章3(2)太平洋側の防災面に加え産業等機能においても代替性を発揮する防災・産業拠点及びネットワークの強化（エネルギー受入・供給拠点やネットワーク機能の強化）に、以下の文章を記載。</p> <p>「このため、日本海側におけるLNG受入基地や日本海側と太平洋側を結ぶパイプラインの整備など、広域ガスパイプラインネットワークの整備等についての検討を進める。」</p> <p>【中間整理 P52、P53】<br/>第3章1(5)豊かな自然環境の保全と地球環境問題への対応（資源循環と不法投棄対策）に、以下の文章を記載。</p> <p>「地域社会や企業等におけるこれまでの地道な取組により様々な資源のリサイクルは堅調な伸びを示しているが、更なる循環型社会構築に向けて、廃棄物の発生抑制や循環資源の再使用・再生利用等の3R施策等を推進するとともに、都市と農山漁村が、相互補完によって相乗効果を生み出しながら、それぞれの経済社会活動を行う「地域循環共生圏」の構築を図る。」</p> |

|                       |      |   |  |  |
|-----------------------|------|---|--|--|
| 目標④<br>対流・交流<br>人口の創出 | 地域資源 | <ul style="list-style-type: none"> <li>「ローカルに輝く」は十分伝わるが、「グローバルに羽ばたく」に関しては、例えば九州等国内の拠点と連携しながら外国との結びつきを示すなど、表現の工夫があるとよいのではないか。</li> </ul>   | <p>【中間整理 P71、P72】<br/>第3章4(2)北陸新幹線の開業、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会を契機とし、さらにはリニア中央新幹線の開業を見据えた首都圏や欧米豪、アジアの新興国等国内外観光客誘致強化と魅力の発信（北陸新幹線やリニア中央新幹線の開業、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会を契機とした国内外に向けた周遊型観光プロモーション）に、以下の文章を記載。</p> <p>「北陸新幹線開業を契機として国内外観光客の需要を掘り起こしていくため、北陸圏の官民が一体となって、北陸デスティネーションキャンペーンを始めとする各種キャンペーン、さらには、首都圏空港IN、関西圏空港OUTの訪日外国人旅行者の北陸への誘客とともに、中部国際空港や高山本線、さらにはリニア中央新幹線の開業を見据え、各公共交通等を組み合わせた周遊型観光の促進に向けた首都圏や海外でのプロモーション活動、鉄道事業者や旅行会社との連携、効果的なメディア媒体によるイメージアップ広告の展開、各県等のアンテナショップの充実・強化等、北陸圏の魅力を国内外に効果的にアピールする。」</p> |  |
|                       |      | <ul style="list-style-type: none"> <li>三次交通について、ほとんど触れられていない。三次交通で行くようなところに、北陸の良い所がある。三次交通まできちんと整備するところを強調してほしい。</li> </ul>   | <p>【中間整理 P69】<br/>第3章4(1)多様な産業、歴史・景観・食文化等に彩られた地域資源の磨き上げと北陸圏内観光周遊ルートの充実（自然・歴史・文化を活かした地域個性の構築と魅力ある観光地の形成）に、以下の文章を記載。</p> <p>「加えて、交通ICカードの導入の支援や鉄道・バス・タクシー等を活用した二次交通、三次交通の整備等、外国人旅行者が観光地を周遊しやすい環境を整備する。」</p>  |  |
|                       |      | <ul style="list-style-type: none"> <li>アジア人観光客をターゲットに雪を観光資源として活用するなど利雪を考えてはどうか。雪は永遠のテーマではあるが、プラス思考で考えることも大事。</li> </ul>   | <p>【中間整理 P69】<br/>第3章4(1)多様な産業、歴史・景観・食文化等に彩られた地域資源の磨き上げと北陸圏内観光周遊ルートの充実（伝統的な産業、自然・歴史に培われた暮らしの継承・発信）に、以下の文章を記載。</p>  |  |
|                       |      | <ul style="list-style-type: none"> <li>台湾からの観光客は、桜・紅葉・立山の雪の壁に関心が高い。雪は、観光資源に活用できるのでは。</li> </ul>   | <p>「また、雪景色や雪の造形を始めとした北陸の冬の再発見や冬を楽しむ文化活動の振興に努め、新しい雪の文化を創造し、全国へ情報発信する。」</p>  |  |
|                       |      | <ul style="list-style-type: none"> <li>世界レベルの観光地になるために、何が足りないのか。マーケティングの視点を取り入れた施策が必要。インバウンドといっても、国籍は100カ国以上。どういったマーケットをどのように攻めるか、セグメント別の戦略を立てるといった方向性を出してもよいのではないか。</li> </ul>                       | <p>【中間整理 P69、P70】<br/>第3章4(1)多様な産業、歴史・景観・食文化等に彩られた地域資源の磨き上げと北陸圏内観光周遊ルートの充実（受入環境の充実）に、以下の文章を記載。</p>   |  |
|                       |      | <ul style="list-style-type: none"> <li>観光業が大きな産業として将来性が見込まれる中、人材育成が重要である。観光学を教える教育機関があってもよい。理論的なバックグラウンドを持った人材、マネジメントができる人材を育てるということも重要である。</li> </ul>  | <p>「多様な観光商品開発や観光分野における人材育成のため、アジアの団体客、欧米の個人客、宗教上の対応等を考慮したマーケティング能力を持ち、顧客ニーズに合った観光プラン構築が可能な観光の専門家の人材発掘及び活用を図るための取組や観光関係者のおもてなしの心を醸成する研修等の取組、訪日外国人を始めとする国内外観光客への観光案内・観光ボランティアガイドや通訳案内士、特例ガイドの育成と民間事業者との連携によるそれらガイド等の積極活用・ネットワークの仕組み構築、さらには訪日外国人旅行者に対して宿泊施設や食事、交通機関等の手配を行うツアーオペレーター(ランドオペレーター)の認証制度の活用等の取組を推進する。」</p>   |  |
|                       |      | <ul style="list-style-type: none"> <li>旅行者の視点で、何が足りないのか、追及することが必要。</li> </ul>   |  |  |
|                       |      | <ul style="list-style-type: none"> <li>日本はものづくりの国である一方、「おもてなし」の国でもある。</li> </ul>  |  |  |
|                       |      | <ul style="list-style-type: none"> <li>観光は、均衡ある日本の発展に寄与できる産業である。しかし、一般的な温泉・食事の観光ではなく、北陸の特性を活かした観光モデル(スタイル)を作らないと、地方の再生に資する産業にならない。日本の原風景、日本の本来の良さが残っているのが今の北陸の売りであり、これを活かしたユニークな観光地づくりが必要。</li> </ul> | <p>【中間整理 P68】<br/>第3章4(1)多様な産業、歴史・景観・食文化等に彩られた地域資源の磨き上げと北陸圏内観光周遊ルートの充実（自然・歴史・文化を活かした地域個性の構築と魅力ある観光地の形成）に、以下の文章を記載。</p> <p>「自然、歴史、伝統文化を楽しむことのできる魅力ある観光地を創出するため、北陸圏固有の伝統文化の保存・継承に向けて、北陸の食材や伝統工芸品を「北陸ブランド」として国内外に情報発信や産地間連携等による技術向上や新商品開発、技能継承者の育成支援等を推進する。」</p>  |  |
|                       |      | 観光  | <ul style="list-style-type: none"> <li>北陸新幹線の開業効果は、JRの予測の4倍近くになっている。首都圏からの人口大移動がはじまる。これまで、京都が観光のゴールデンルートといわれてきたが、北陸と長野で「プラチナルート」の形成を考えている。能登への入込については、東海北陸自動車道(能越道)の効果も非常に大きい。</li> </ul>  | <p>【中間整理 P71】<br/>第3章4(2)北陸新幹線の開業、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会を契機とし、さらにはリニア中央新幹線の開業を見据えた首都圏や欧米豪、アジアの新興国等国内外観光客誘致強化と魅力の発信（交流に必要な交通基盤、社会基盤整備）に、以下の文章を記載。</p> <p>「これら整備の進む広域交通ネットワークを活かしていくことで、国内外観光客の誘客促進に向けて、圏内及び隣接圏域の多彩な観光資源を組み合わせ、観光圏の形成支援のための国の支援制度等の活用やビジットジャパン地方連携事業を活用しながら、首都圏空港と関西圏空港からの北陸新幹線の利用、さらには中部国際空港、高山本線等を組み合わせた北陸圏を核とした様々なニーズに対応した個人旅行者の誘客の多様で魅力ある広域的な観光周遊ルートや体験型観光等多様な観光メニューを創出する。」</p> |
|                       |      |   | <ul style="list-style-type: none"> <li>観光リソースをこれまでとは異なる視点でどう開発していくか。エコツーリズムなどの記載はあるが、もう少し深掘りが必要。</li> </ul>  | <p>【中間整理 P68】<br/>第3章4(1)多様な産業、歴史・景観・食文化等に彩られた地域資源の磨き上げと北陸圏内観光周遊ルートの充実（自然・歴史・文化を活かした地域個性の構築と魅力ある観光地の形成）に、以下の文章を記載。</p>   |
|                       |      |   | <ul style="list-style-type: none"> <li>観光については、温泉・食事以外の新しいタイプのツーリズム開発を書き込んでほしい。</li> </ul>   | <p>「さらには、エコツーリズムや活発な取組が展開されている棚田や果樹、花卉のオーナー制度、3県で取り組まれる農林漁業体験民宿等のグリーンツーリズム、自然、温泉、食文化等を活かしたライフケア関連産業と連動したヘルスツーリズム、越前伝統工芸連携協議会に加え北陸新幹線開業を契機として富山県、石川県の伝統産業から先端産業を担う企業で多数取り組まれている産業観光、さらにはインフラツーリズム等の新たな観光スタイルの創出をより一層推進する。」</p>  |

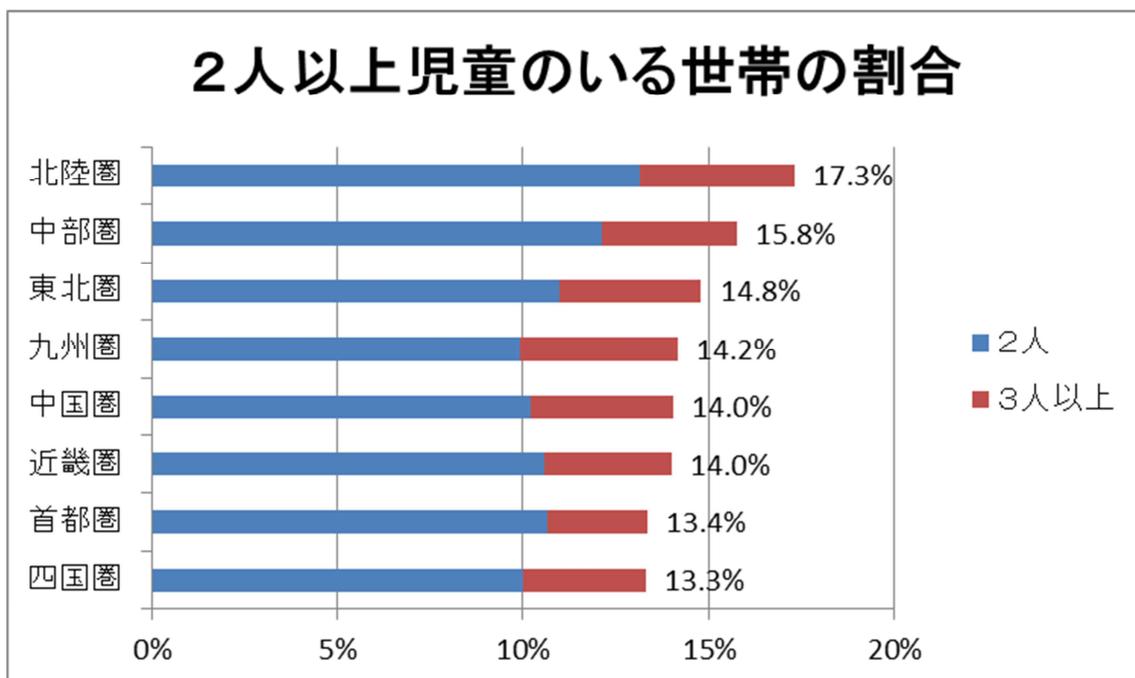
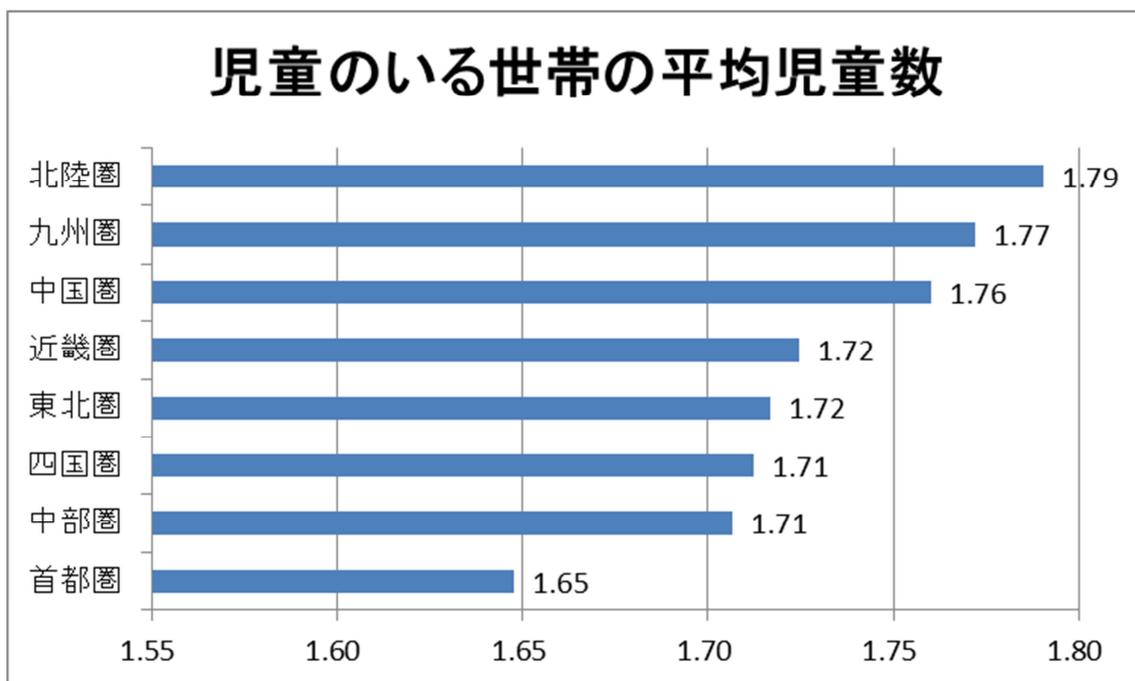
|                   |  |   |
|-------------------|--|---|
| 全体                | <ul style="list-style-type: none"> <li>北陸新幹線の大阪延伸についても、地域として声をはっきり上げるべきだと思う。</li> </ul>  | 整備新幹線の整備は、本計画においては現時点における政府・与党申合せを記述。   |
|                   | <ul style="list-style-type: none"> <li>東海北陸自動車道4車線化、北陸新幹線の大阪延伸、能越自動車道(七尾～田鶴浜)開通は真っ先に記載してほしい。</li> </ul>  |   |
|                   | <ul style="list-style-type: none"> <li>何か行動を起こして変わるような提言を出してほしい。</li> </ul>  | 広域連携プロジェクトにて具体化。  |
|                   | <ul style="list-style-type: none"> <li>夢ばかりではなく、具体的に何をするのか、というところを記載してほしい。トピックの重複は、整理してほしい。</li> </ul>   |   |
|                   | <ul style="list-style-type: none"> <li>課題の整理の際に、過去10年間の傾向を踏まえて、今後の10年間を検討する等、数値等の客観的な根拠を示してほしい。たとえば、エネルギー分野では、3.11後の再エネ導入率やエネルギー自給率、物流分野では、これまでの物流の増加傾向や今後の見通しを示す等。読み物としては良いが、国の計画としてはまだ薄い。</li> </ul>   | 計画のモニタリング方法については、評価指標を含めて今後検討。  |
| 1 接続型都市圏プロジェクト    | <ul style="list-style-type: none"> <li>北陸は自然に恵まれていて、暮らしやすい地域。また、福井・石川・富山と40万程度の中核都市が連なる横長の地域。だが、連携する都市計画の話が出てこない。物理的な距離を縮めるために新幹線や高速道路はあるが、接続型都市圏として成り立つ都市計画的な取組がほしい。</li> </ul>                         | <p>【プロジェクト骨子 P2】</p> <p>(2)近接する都市圏相互の魅力を享受することのできる接続型都市圏の形成（都市間の連携機能の強化）に、以下の文章を記載。</p> <p>「〇連携中枢都市圏の形成に向けた取組では、金沢市を中心とした4市2町による連携中枢都市圏の形成が進められている」</p>   |
|                   | <ul style="list-style-type: none"> <li>東アジアでは、これからメガシティが増え、ますます都市問題に悩むようになる。そうした都市に対し、北陸の都市と企業とがお手伝いをする。それは、自分たちを磨くことにもなり、インバウンドになって返ってくる。基礎自治体としてできることがある。</li> </ul>                                   | <p>【プロジェクト骨子 P1】</p> <p>(1)住環境や子育て環境にも恵まれた個性ある都市圏の暮らしの質の向上（個性豊かでコンパクトな都市圏の形成）に、以下の文章を記載。</p> <p>「〇「富山市環境未来都市計画」では、「環境未来都市」構想推進国際フォーラムへの参加、環境未来都市事業の国際展開、都市間連携・ネットワークの活用等の取組が進められている。</p> <p>〇これまでに有した貴重な都市間の連携やネットワークを最大限活用し、自らの取組における成功事例について情報発信を行い、国内外の都市・地域での普及展開に努める。</p> <p>〇国内外の都市・地域での成功事例は、自らの取組にインテグレートさせ、新たな成功事例を創出させる。</p> <p>〇この情報発信は、講演や意見交換会の開催・出席のほか、国際的イベントにも積極的に参加し、取組のPRを行うとともに、新たなネットワークも確立し、普及促進を展開させる。」</p> |
|                   | <ul style="list-style-type: none"> <li>工業製品やインフラ単体で見ると、中国等も同じレベルに来ていて価格も安い。市も加わって、技術を都市のソリューションとして売っていかないと競争できない。たとえば、富山市のLRTの仕組み(車両とメンテナンスに加え、街中に電車があるメリットの訴求)や、仙台市のごみ処理システム(ごみ処理とごみ分別PR)など。</li> </ul> | <p>【プロジェクト骨子 P1】</p> <p>(1)住環境や子育て環境にも恵まれた個性ある都市圏の暮らしの質の向上（医療・福祉サービスの充実）に、以下の文章を記載。</p> <p>「〇富山型デイサービスなど地域福祉の推進、低床式バスの導入や空港・駅など交通結節点のバリアフリー化を通じた高齢者、障害者が暮らしやすいまちの実現」</p>  |
| 2 農山漁村活性化プロジェクト   | <ul style="list-style-type: none"> <li>能登半島はどう捉えられているのか、不明確である。記載すべき。</li> </ul>   | <p>【プロジェクト骨子 P6】</p> <p>(2)都市と農山漁村の地域間交流と連携の促進による地域経済の活性化（都市と農山漁村との交流拡大）に、以下の文章を記載。</p> <p>「〇能登半島振興の基本的方向である「活気とうるおいのある個性的な地域」を実現するため、ヒト・モノ・情報の交流、人づくりと文化の創造、自然と人との共生、安心と楽しさの生活の実感、知恵を活かしたものづくりに関する施策を重点的に推進する。」</p>  |
|                   | <ul style="list-style-type: none"> <li>能登半島の過疎地域にどう対処していくのか、せめて課題整理だけでもしてほしい。</li> <li>能登半島の活性化について、記載が必要。石川県内で金沢への一極集中が起きている。</li> </ul>  |   |
| 3 防災プロジェクト        | <ul style="list-style-type: none"> <li>北陸圏域で災害対応を連携して行ってきたという印象がない。圏域防災計画を一緒に作るくらいでないと、連携していけないのではないかな。</li> </ul>   | <p>【プロジェクト骨子 P10】</p> <p>(2)地域コミュニティを活かした地域防災体制の強化 に、以下の文章を記載。</p> <p>「〇北陸地域の防災関係機関が連携し、連絡会議や防災訓練等を通じて、北陸地域の防災力、即応力強化を図る。」</p>  |
|                   | <p>【第1回懇談会指摘意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>日本海・太平洋2面活用型国土の機能拡充・補完関係に大きな期待が寄せられている。福井県、石川県、富山県に新潟県を加えた北陸地方4県を核とした環日本海防災拠点構想を立ち上げ、日本全体の防災戦略への貢献と、地域の安全安心な国土の実現を目指すことを目標にかかげるべき</li> </ul>  |   |
|                   | <ul style="list-style-type: none"> <li>南海トラフ大地震等で太平洋側が被災したときに、北陸はバックアップエリアになるだろう。ただし、今、富山県には108万人住んでいて、108万人だから水は足りているが、あと20万人、30万人と受け入れたとき、水や米は足りるのか、試算が必要ではないか。</li> </ul>                             | —   |
| 6 日本海中枢拠点形成プロジェクト | <ul style="list-style-type: none"> <li>ものづくりがシーズ中心の発想になっている。しかし、ニーズベースで産業政策を考えることが重要。美容、健康、若返り、安心・安全、ペット、癒し、冠婚葬祭等、個人がお金を使うポイントをターゲットにした商品開発等、ニーズベースのほうが民間も乗りやすいのではないかな。</li> </ul>                       | <p>【プロジェクト骨子 P15】</p> <p>(1)日本海沿岸地域有数のものづくり集積を活かした産業の国際競争力の強化（北陸圏の産業ニーズを踏まえた人材育成・人材確保及び産学官や異分野連携等による中小企業の活性化）に、以下の文章を記載。</p> <p>「〇製薬、化学、金属、機械、繊維、眼鏡等の北陸圏の企業が持つ優れた技術を新事業や新商品開発に結び付けていくため、戦略的基盤技術高度化支援事業等によるモノ作り基盤技術の高度化支援や、中小企業地域資源活用プログラム等による異分野が連携した新商品開発・販路開拓の支援を推進」</p>  |
|                   | <ul style="list-style-type: none"> <li>対流には、さまざまなレベルがある。コミュニティレベル、圏域内、隣県、全国、世界と、輪が広がっていくイメージが伝わるとよい。</li> </ul>  | <p>【プロジェクト骨子 P15】</p> <p>6. 東アジアに展開する日本海中枢圏域形成プロジェクトの目的・コンセプト に、以下の文章を記載。</p> <p>「北陸圏の有する三大都市圏や環日本海諸国を始めとする東アジアに対する地理的な優位性を活かして、日本海側の産業・物流の中核拠点機能を強化するため、地域レベルでは日本海沿岸地域有数のものづくり集積を活かした産業の国際競争力の強化、三大都市圏や環日本海諸国レベルでは近接性を活かし、東アジア等の諸外国に展開する国際物流機能の強化を推進する。」</p>   |

|                    |   |  |
|--------------------|---|--|
| 7 食の北陸ブランド展開プロジェクト | <ul style="list-style-type: none"> <li>・CSRの一環で農林業を支援しているが、より積極的に農業・林業への製造業の協力ができればと考えている。便利になれば過疎化しないという考え方もあるが、実際には産業の生産性が低いことが過疎化の端的な理由だろう。農林業に製造業の手法を活用する等の生産性を上げる取組を行政中心に進めること必要だ。農山漁村の活性化も進むのではないかな。</li> </ul> | <p>【プロジェクト骨子 P17、P18】</p> <p>(1)食料供給力の強化（「北陸ブランド」の構築）に、以下の文章を記載。</p> <p>「〇6次産業化による農林漁業と他産業のバリューチェーン形成や、中小企業者と農林漁業者相互の経営資源の活用による農商工連携の促進等、異業種間の英知を結集して食の「北陸ブランド」の確立に資する新商品開発や国内外への販路拡大の取組を強化」</p> |
|                    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・農業についてはかなり具体策が記載されているが、林業・水産業についても、将来への糸口になることを書き込んでほしい。基本的には企業化の方向だろう。</li> </ul>  | <p>【プロジェクト骨子 P18】</p> <p>(1)食料供給力の強化（「北陸ブランド」の構築）に、以下の文章を記載。</p> <p>「〇6次産業化の具体的な取組として、例えば水産業については、養殖魚の加工・販売事業、水産物・未利用資源を活用した新商品の開発及び販売拡大事業等を推進」</p>  |
|                    | 9 観光交流圏形成プロジェクト   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・農山漁村の経済的な効率性以外の価値が注目されている。修学旅行生を受け入れるような取組が九州や四国で進んでいるが、北陸ではそういう取組が遅れているように思われる。能登や中山間地で、力を入れていくべきである。</li> </ul>  |
| その他                | <ul style="list-style-type: none"> <li>・今回の北陸広域地方計画は、わくわくする感じがする。人を引っ張るにはカリスマ性が必要。</li> </ul>   | —  |
|                    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・地図がバラバラで、北陸が全体的にどうなっているのかわかりづらい。総括図が必要ではないか。表現系を見直しては。</li> </ul>   | 詳細な地図をベースに統一し、図表を修正。   |
|                    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・第1回有識者懇談会で委員が述べた意見をもう一度噛み砕いて反映してほしい。</li> </ul>   | 第1回懇談会指摘意見を再度確認した上で計画(案)を策定する。   |
|                    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・中央はどういうことを地方にやらせてくれるのか。すべて東京ではダメ。東京と地方との役割分担が必要。</li> </ul>   | —  |
|                    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・文理融合のものの見方が、地方創生に必要なのではないかな。</li> </ul>   | —  |

第2回有識者懇談会での主な意見と対応(欠席者)

| 項目等                 | 指摘事項   | 対応の方向(案)   |
|---------------------|--|--|
| 将来像                 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・「新・北陸」について大変シンプルでわかりやすく、また印象に残るコピーだと思います。広報する際に効果的に使用すると良いと考えます。</li> </ul>  | —  |
| 目標①<br>個性ある北陸圏の創生   | 暮らし  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・富山県はこども110番の取り組みがあり、何か困ったことがあれば掲示してある家や店舗に駆け込むことができる。それを子供だけでなくお年寄りや障害者(児)の110番があれば、お年寄りや障害者の外出の頻度が多くなるし、コミュニティが広がっていくと思う。</li> </ul>  |
| 目標③<br>日本海側の中枢拠点の形成 | 物流・旅客  | <p>【中間整理 P34】</p> <p>第3章1(1)親との近居や地域コミュニティを維持するとともに、子育て支援や女性就業、生活サービス支援等だれも暮らしやすい生活環境の充実（若者から高齢者みんなが住みやすく、2代、3代と安心して住み続けられる、地域コミュニティの維持・充実、定住化環境整備）に、以下の文章を記載。</p> <p>「加えて、高齢者あるいは高齢者を介護する者が安心して生活することができ、新たな雇用の創出にもつながる新生活支援サービス産業の育成も視野に入れるとともに、生活安全センターとしての交番の機能を支える交番相談員の活用、防犯・防犯活動拠点の確保、ボランティアに対する更なる育成と支援等を行う。」</p>  |
| 目標③<br>日本海側の中枢拠点の形成 | 物流・旅客  | <p>【中間整理 P63】</p> <p>第3章3(1)市場となる大都市圏との取引や物流等を支える、更なる時間距離の短縮や生産拠点等誘致に向けた信頼性の高い国際物流・旅客機能の強化（道路・鉄道・港湾・空港と産業活動が連携した物流機能の強化）に、以下の文章を記載。</p> <p>「このため、大幅に増加する物流貨物の受け皿を確保するのみならず、経済・産業面での相互発展を支援し、港湾利用と連動した企業立地の促進等、産業分野と連携した物流機能の強化のため、港湾の国際海上コンテナターミナル、国際物流ターミナルや国内物流ターミナルの整備、空港の国内外の物流機能の強化を推進する。さらに、貨物利用の目的に応じた輸送経路の選択可能性の向上や災害時にリダンダンシーを発揮する相互補完機能を強化するため、高規格幹線道路・地域高規格道路等の幹線道路網の整備により、広域交通ネットワークの構築を推進する。」</p> |
| 広域連携プロジェクト          | <ul style="list-style-type: none"> <li>・北陸3県の域内連携はまだ弱い。域内連携、すなわち北陸3県の県境を超えた連携の必要性、そのための地域間相互理解の深化、それに伴う各種プロジェクトの波状的展開といったところが、国内的、国外的にも注目度を増すポイントだと思う。かつての「越の国」の一体感、共存、共栄の精神のようなもの、その啓発活動も必要なのではないかな。</li> </ul> | —  |

児童のいる世帯の平均児童数と2人以上児童のいる世帯の割合



使用データ：国民生活基礎調査 平成22年国民生活基礎調査 世帯（第3巻）